

## 安全データシート

作成 2017年5月8日

改訂 2018年4月6日

## 1. 製品及び会社情報

製品名 : サンケイダブルシューターSE  
 会社名 : サンケイ化学株式会社  
 住所 : 〒366-0032 埼玉県深谷市幡羅町1-13-1  
 担当部門 : 開発部  
 電話番号 : 048-572-4171  
 F A X 番号 : 048-572-4174  
 緊急連絡先 : 同上  
 整理番号 : B-153  
 推奨用途及び使用上の制限 : 農薬

## 2. 危険有害性の要約

最重要危険有害性及び影響 :

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	: 区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	: 区分外
	急性毒性(経皮)	: 区分外
	急性毒性(吸入:ガス)	: 分類対象外
	急性毒性(吸入:蒸気)	: 分類対象外
	皮膚腐食性/刺激性	: 区分外
	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	: 区分2B
	呼吸器感作性	: 分類できない
	皮膚感作性	: 区分1
	生殖細胞変異原性	: 分類できない
	発がん性	: 分類できない
	生殖毒性	: 分類できない
	特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	: 分類できない
	特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	: 分類できない
	吸引力呼吸器有害性	: 分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性(急性)	: 区分外
	水生環境有害性(慢性)	: 区分外

GHSラベル要素

絵表示 :



注意喚起語 :

警告

危険有害性情報 :

眼刺激

注意書き 【安全対策】 :

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

保護手袋を着用すること。

粉塵、煙、ガス、ミスト、蒸気の吸入を避けること。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

【救急措置】 :

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズをしていて容易

に取り外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

目の刺激が続く場合は医師の診断、手当を受けること。

取扱い後はよく手を洗うこと。

皮膚に付いた場合、多量の水と石けんで洗うこと。

皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当を受けること。

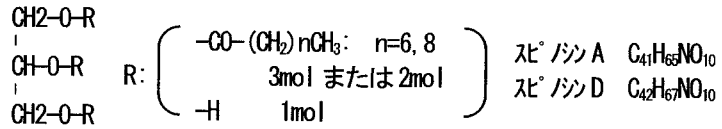
汚染された衣類を再使用する場合は洗濯すること。

【廃 棄】 :

内容物や容器を都道府県知事の許可を得た専門の産業廃棄物処理業者に業務を委託すること。

3. 組成、成分情報

単一化学物質・混合物の区別 : 混合製品  
 化学名及び (有効成分) : 脂肪酸グリセリド 75.0%  
 含有量 : スピノサド 5.0%  
 (その他成分) : 界面活性剤、水 等 20.0%  
 化学式又は構造式 : デカノイルオクタノイルグリセロール スピノサド A 及び D



成分	含有量	CAS. No.	PRTR 法	官報公示整理番号	
				化審法	安衛法
デカノイルオクタノイルグリセロール	75.0%	65381-09-1	—	2-669	—
スピノサド	5.0%	168316-95-8	—	—	8-(4)-1959

4. 応急措置

- 眼に入った場合 : 直ちに多量の清浄水で15分以上洗眼した後、眼科医の手当を受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに石けんで良く洗い落とすこと。  
作業後は衣服等を交換し、着用していた衣服は他の物と分けて洗濯すること。
- 吸入した場合 : 直ちに空気の新鮮な場所へ移動し、身体を毛布等で覆い保温し安静に努め、異常が続く場合は速やかに医師の手当を受けること。
- 飲み込んだ場合 : 水でよく口の中を洗浄する。可能であれば吐き出させ、直ちに医師の手当てを受けること。  
患者に意識がない場合、無理に吐かせないで直ちに医師の手当てを受けること。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 水噴霧、泡、二酸化炭素
- 使ってはならない消火剤 :
- 火災時の特有の有害性 : 特になし
- 特有の消火方法 : 速やかに火元への燃焼源を断ち、消火剤を用いて消火する。  
容器及び周辺に散水して冷却する。  
消火作業は風上から行う。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。  
漏出液の処理を行う際には保護具を着用する。
- 環境に対する注意事項 : 漏出物を直接に河川や下水に流してはいけない。  
漏出液が河川、養殖池等に流れ込まないように注意すること。
- 除去方法(回収、中和) : 漏出液は吸着剤(オガクズ、土砂等)に吸着させ掃き集める。  
密封できる空容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い 技術的対策 : ラベルをよく読む。記載以外に使用しない。  
取扱いは換気の良い場所で行い、作業場の換気は十分行う。  
屋外での取扱いはなるべく風上から作業する。  
取扱いの都度、容器を密閉する。  
眼、皮膚、衣類に付けないこと。  
保護手袋および保護眼鏡/保護面を着用すること。  
取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。  
取扱い後はよく手を洗うこと。
- 局所排気・全体排気 :
- 注意事項 :
- 安全取扱い注意事項 : 高温、火気の近くで取り扱ってはならない。
- 保管 適切な保管条件 : 食物、飲料等と区別し、火気、直射日光を避け、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管すること。  
小児の手の届く所へ置かない。
- 安全な容器包装材料 : ポリエチレン瓶、ポリエチレン缶

**8. 暴露防止及び保護措置**

設備対策	:	暴露を防止するため、装置の密閉又は局所排気設備を設置する。
暴露限界値	管理濃度	: 情報なし
	許容濃度	: 情報なし
測定方法	:	情報なし
保護具	呼吸用保護具	: 農業用マスク
	保護眼鏡	: 着用
	保護手袋	: 手袋
	保護衣	: 長ズボン・長袖の作業衣

**9. 物理的及び化学的性質**

外観	:	淡黄色水和性粘稠懸濁液体
臭い	:	無臭
pH	:	8.05 (1%水溶液)
融点・凝固点	:	情報なし
沸点、初期点及び沸騰範囲	:	情報なし
引火点	:	227.9°C (20°C)
発火点	:	適用外
燃焼性	:	適用外
燃焼又は爆発範囲	:	適用外
蒸気圧	:	情報なし
密度・比重	:	0.972 (25°C)
溶解度	:	情報なし
オクタノール/水分配係数	:	情報なし
分解温度	:	情報なし
解離定数	:	情報なし
粘度	:	193mPa·s (25°C)

**10. 安定性及び反応性**

安定性	:	通常の使用では安定
危険有害反応可能性	:	情報なし
避けるべき条件	:	情報なし
混触危険物質	:	情報なし
危険有害な分解生成物	:	情報なし

**11. 有害性情報**

急性毒性(経口)	:	ラット♀	>2000mg/kg
急性毒性(経皮)	:	ラット♂♀	>2000mg/kg
急性毒性(吸入:ガス)	:	適用外	
急性毒性(吸入:蒸気)	:	適用外	
皮膚腐食性/刺激性	:	ウサギ	軽度の刺激性
眼に対する重篤な損傷 /刺激性	:	ウサギ	極く軽度の刺激性
呼吸器感作性	:	情報なし	
皮膚感作性	:	モルモット	軽度陽性
生殖細胞変異原性	:	情報なし	
発がん性	:	情報なし	
生殖毒性	:	情報なし	
特定標的臓器/全身毒性 (単回暴露)	:	情報なし	
特定標的臓器/全身毒性 (反復暴露)	:	情報なし	
吸引性呼吸器有害性	:	情報なし	

12. 環境影響情報

生態毒性 魚 (コイ)	: LC50	774ppm (96hr)
甲殻類 (オミジンコ)	: LC50	302ppm (48hr)
藻類	: ErC50	>1000ppm (76hr)
残留性/分解性	: なし	
生体蓄積性	: なし	
土壌中の移動性	: なし	
その他	: 情報なし	

13. 廃棄上の注意

: 使用残りの農薬を不注意に廃棄したり、不要になった農薬を放置したりすると思わぬ事故を引き起こすことがあるので、その処理に当たっては関係法令を遵守し適正な処理を行うこと。  
また、空容器、空袋等の処理は、関係法令を遵守し、廃棄物処理業者に処理を委託する等により適切に行うこと。

14. 輸送上の注意

国際規制	: 国連分類	: 9
	: 国連番号	: UN3077
	: 容器等級	: III
	環境危険有害性: Spinosad	
国内規制	: 国内法 (消防法、毒劇法) の規定に従った容器、積載方法により輸送する。	
輸送の特定の安全対策及び条件	: 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 : 車両、船舶には保護具 (手袋、メガネ、マスク等) を常備する他、緊急時の処理に必要な消化器、工具等を備えておく。	

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法	: 該当なし
労働安全衛生法	: 該当なし
化審法	: 該当なし
毒劇物取締法	: 該当なし
消防法	: 第4類 第4石油類
船舶安全法	: 該当なし
航空法	: 該当なし
農薬取締法	: 登録番号 第24054号

16. その他の情報

引用文献	: 最新農薬データブック
	: 製品評価技術基盤機構のHP参照

この製品安全データシートは現時点で入手可能な資料等をもとに作成しておりますが、物理化学的性質、危険有害性等に関しては、いかなる保証も成すものではありません。また注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いを行なう場合には自らの責任において用途に適した処置を講ずることが必要であることを理解した上で活用して下さい。